

調査研究班平成22年度経過報告

調査研究班平成22年度経過報告

平成22年度 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 『びまん性肺疾患に関する調査研究』第一回キックオフミーティング

日時：平成22年7月9日(金)午後14:00～17:00

場所：東京ガーデンパレス

開会挨拶

厚生労働科学研究費による研究班の概要
本年度の活動方針について

研究代表者 自治医科大学 杉山幸比古
厚生労働省特定疾患対策課
自治医科大学 杉山幸比古

特発性間質性肺炎部門報告：重点項目(部会活動方針を含む)について 議事進行 自治医科大学 坂東政司

- ① 疫学調査(北海道 study) 札幌医科大学第三内科 高橋先生
- ② IPF 急性増悪の遺伝子解析 埼玉医科大学 萩原先生
- ③ ピルフェニドン検証部会 自治医科大学 杉山幸比古
- ④ PMX 部会 日本医科大学内科学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門 吾妻先生
- ⑤ IP 合併肺癌の治療指針策定部会

東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座呼吸器病態学分野 海老名先生

追加報告：IP 合併肺癌に対する化学療法に関する第2回アンケート調査について

- ⑥ IIPs「診断と治療の手引き」の改訂準備部会 日本医科大学内科学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門 弦間先生
東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科 本間先生

特発性間質性肺炎部門報告：部会活動方針について

- ⑦ 急性増悪部会 天理よろづ相談所病院呼吸器内科 田口先生
- ⑧ 膠原病肺部会 浜松医科大学内科学第二講座 千田先生
- ⑨ 慢性過敏性肺炎部会 東京医科歯科大学医学部呼吸器内科 稲瀬先生
- ⑩ 在宅酸素療法・リハビリテーション部会 公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科 谷口先生
- ⑪ 画像部会 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科 酒井先生(上甲先生)

サルコイドーシス部門報告

浜松医科大学内科学第二講座 千田先生

BO・DPB部門報告

名古屋大学医学部医学系研究科病態内科学講座呼吸器内科学分野 長谷川先生

連絡事項

自治医科大学 坂東政司

閉会挨拶

自治医科大学 杉山幸比古

第81回 間質性肺疾患研究会

日 時：2010年6月25日(金)午後1:00～5:35
会 場：アステラス製薬株式会社 本社2階ホール
世話人：東邦大学医学部内科学講座(大森)呼吸器内科 本間 栄
主 題：蜂巢肺再考 ～CT-Pathologic Correlation～

一般演題第一部 蜂巢肺の形成過程を追跡しえたIPF

座長：浜松医科大学医学部附属病院第二内科 千田金吾

関東労災病院病理診断科 植草利公

1. 蜂巢肺の形成過程が追跡可能で、その後ピルフェニドン治療を行ったIPF / UIPの1例
自治医科大学呼吸器内科

○坂東政司, 中屋孝清, 中山雅之, 細野達也, 間藤尚子, 山沢英明, 弘中 貢, 杉山幸比古

2. 蜂巢肺形成過程を追跡しえたIPF / UIPの一例

浜松医科大学第二内科

○河野雅人, 貝田勇介, 榎本紀之, 中村祐太郎, 乾 直樹, 須田隆文, 千田金吾

3. 生検時には蜂巢肺を認めず、死亡まで約8年の経過を追えたIPF / UIPの1例

—蜂巢肺の形成過程を追跡しえた症例—

神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科¹⁾,

日本赤十字社医療センター病理部²⁾

○土屋紀子¹⁾, 小倉高志¹⁾, 前原 愛¹⁾, 池田 慧¹⁾, 緒方 良¹⁾, 中澤篤人¹⁾, 奥田 良¹⁾, 澤田哲郎¹⁾,
澤幡美千瑠¹⁾, 榎本崇宏¹⁾, 馬場智尚¹⁾, 篠原 岳¹⁾, 遠藤高広¹⁾, 西平隆一¹⁾, 小松 茂¹⁾,
加藤晃史¹⁾, 萩原恵理¹⁾, 高橋 宏¹⁾, 武村民子²⁾

4. 蜂巢肺の形成過程を追跡できた2症例

神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科

○立川 良, 永田一真, 櫻井綾子, 南條成輝, 大塚今日子, 林三千雄, 富井啓介

一般演題第二部 蜂巢肺および周辺疾患-1

座長：神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器科 小倉高志

国家公務員共済組合連合会虎の門病院放射線診断科 黒崎敦子

5. 経過中に蜂巢肺が出現した特発性肺線維症の3例

公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科¹⁾, 富山大学附属病院外科病理学講座²⁾,

近畿中央胸部疾患センター研究検査科³⁾

○木村元宏¹⁾, 谷口博之¹⁾, 近藤康博¹⁾, 木村智樹¹⁾, 片岡健介¹⁾, 福岡順也²⁾, 北市正則³⁾

6. 初診から剖検まで追跡し得たIPF / UIPの一例

国家公務員共済組合連合会虎の門病院呼吸器センター内科¹⁾, 同 放射線診断科²⁾, 同 病理部³⁾

○宮本 篤¹⁾, 花田豪郎¹⁾, 宇留賀公紀¹⁾, 高谷久史¹⁾, 杉本栄康¹⁾, 諸川納早¹⁾, 黒崎敦子²⁾,
藤井丈士³⁾, 岸 一馬¹⁾

7. 画像上蜂巢肺を疑ったが、病理組織学的には分類不能型特発性間質性肺炎であった1剖検例

東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科¹⁾, 同 病理²⁾, 虎の門病院放射線診断³⁾,

独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院病理診断科⁴⁾

○杉野圭史¹⁾, 伊藤貴文¹⁾, 村松陽子¹⁾, 佐藤敬太¹⁾, 坂本 晋¹⁾, 渋谷和俊²⁾, 石川由起雄²⁾,
黒崎敦子³⁾, 植草利公⁴⁾, 本間 栄¹⁾

8. 外科的肺生検にてRB-ILDと診断され、7年の経過で蜂巢肺様変化を呈した1例
 信州大学医学部内科学第一講座¹⁾、同 病態解析診断学講座²⁾、同 保健学科生態情報検査学講座³⁾
 ○横山俊樹¹⁾、山本 洋¹⁾、津島健司¹⁾、本田孝行²⁾、藤本圭作³⁾、久保恵嗣¹⁾

一般演題第三部 蜂巢肺および周辺疾患-2

座長：公立陶生病院呼吸器アレルギー内科 近藤康博

公立学校共済組合関東中央病院臨床検査科・病理科 岡 輝明

9. 嚢胞陰影を伴い喫煙の関与が強く疑われた間質性肺炎の一例
 -蜂巢肺が鑑別となった症例-
 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科¹⁾、同 放射線科²⁾
 日赤医療センター病理部³⁾
 ○土屋紀子¹⁾、小倉高志¹⁾、前原 愛¹⁾、池田 慧¹⁾、緒方 良¹⁾、中澤篤人¹⁾、奥田 良¹⁾、澤田哲郎¹⁾、
 澤幡美千瑠¹⁾、榎本崇宏¹⁾、馬場智尚¹⁾、篠原 岳¹⁾、遠藤高広¹⁾、西平隆一¹⁾、小松 茂¹⁾、
 加藤晃史¹⁾、萩原恵理¹⁾、高橋 宏¹⁾、岩澤多恵²⁾、武村民子³⁾
10. 長期に経過を追うことのできた気腫合併間質性肺炎の1例
 日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)¹⁾、同 解析人体病理学講座²⁾
 ○柏田 建¹⁾、坂本 徹¹⁾、林 宏紀¹⁾、森本泰介¹⁾、神尾孝一郎¹⁾、齋藤好信¹⁾、阿部信二¹⁾、
 白杵二郎¹⁾、吾妻安良太¹⁾、弦間昭彦¹⁾、功刀しのぶ²⁾、小野美紀子²⁾、寺崎泰弘²⁾、福田 悠²⁾
11. 当院におけるHRCT診断IPF症例と外科生検診断IPF症例の比較
 札幌医科大学第三内科
 ○北村康夫、千葉弘文、大塚満雄、黒沼幸治、工藤和実、村上聖司、白鳥正典、高橋弘毅

第四部 シンポジウム【蜂巢肺の画像と病理】

Section I

座長：独立行政法人国立病院機構東京病院臨床研究部病理疫学研究室 蛇澤 晶

東邦大学医学部内科学講座(大森)呼吸器内科 本間 栄

1. HRCTでみる蜂巢肺の初期像と剖検肺の解析で見た蜂巢肺と牽引性気管支拡張の鑑別
 天理よろづ相談所病院 野間恵之
 共同演者：大久保豪祐、西本優子、田口善夫、小橋陽一郎
2. 蜂巢肺と牽引性気管支拡張の鑑別に焦点をあてて
 天理よろづ相談所病院臨床病理部 小橋陽一郎

Section II

座長：日本赤十字社医療センター病理部 武村民子

公立学校共済組合近畿中央病院放射線科 上甲 剛

1. 蜂巢肺画像診断上の問題点；まとめにかえて
 埼玉医科大学国際医療センター放射線科 酒井文和
2. 病理のまとめと蜂巢肺形成機序
 日本医科大学解析人体病理学 福田 悠

総合討論

閉会挨拶：東邦大学医学部内科学講座(大森)呼吸器内科 本間 栄

第17回 マクロライド新作用研究会

日 時：2010年7月16日(金)15:00～20:00
7月17日(土) 9:00～16:30
会 場：北里大学 コンベンションホール
当番世話人：滋賀医科大学耳鼻咽喉科学 清水猛史

当番世話人挨拶 滋賀医科大学耳鼻咽喉科学 清水猛史

シンポジウム

座長：済生会熊本病院呼吸器センター 菅 守隆

東北大学大学院医学系研究科先進感染症予防学寄附講座 山谷睦雄

1. 新型インフルエンザに対する抗菌薬使用の実態調査
マクロライド新作用研究会インフルエンザ治療実態調査グループ 日本医科大学
吾妻安良太
2. 小児インフルエンザ臨床治療におけるクラリスロマイシン有用性の検討
せんぼ東京高輪病院小児科, 昭和大学小児科
辻祐一郎
3. 新型インフルエンザ感染におけるメディエーター制御としての血液浄化療法の可能性
日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門
阿部信二
4. インフルエンザ感染における生体過剰反応に対するマクロライドの新知見
九州保健福祉大学薬学部
佐藤圭創
5. インフルエンザ感染に対するマクロライドの新知見
東北大学大学院医学系研究科先進感染症予防学寄附講座¹⁾
北里大学北里生命科学研究所・北里大学大学院感染制御科学府²⁾
仙台医療センター臨床研究部³⁾
山谷睦雄¹⁾, 砂塚敏明²⁾, 西村秀一³⁾

特別報告

座長 北里大学北里生命科学研究所 赤川清子

1. 抗インフルエンザ薬のタミフル, リレンザの服用で気道粘膜の抗ウイルスIgA抗体の産生は抑制されるが, マクロライドの併用はこれを回復させる
徳島大学疾患酵素学研究センター長 木戸 博

特別講演 「新型(H5N1)インフルエンザ」

座長 結核予防会複十字病院 工藤翔二

1. Clinical characteristics of avian H5Ni influenza and the current situation in Indonesia
Persahabatan hospital, University of Indonesia
Faisal Yunus

一般演題1 『細菌／体内動態』

座長 東邦大学微生物・感染症治療学 舘田一博

1. 呼吸器感染症治療の最適化を目的としたマクロライド及びケトライド系抗生物質の肺組織内動態解析
北海道薬科大学
森本一洋, 戸上紘平, 丁野純男
2. 慢性副鼻腔炎患者から分離されたマクロライド耐性ブドウ球菌の細菌学的特徴
川崎医科大学耳鼻咽喉科
兵 行義

一般演題2 『鼻副鼻腔炎』

座長 鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 松根彰志

1. 副鼻腔陰影を伴うアレルギー性鼻炎におけるマクロライド併用の有用性
名古屋市立大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科
鈴木元彦, 中村善久, 横田 誠, 村上信五
2. 慢性副鼻腔炎に対するラマトロバン(バイナス)併用マクロライド療法の効果検討
昂会日野記念病院耳鼻咽喉科¹⁾, 滋賀医科大学耳鼻咽喉科²⁾
桜井弘徳¹⁾, 清水猛史²⁾

国際シンポジウム

座長 昭和大学医学部耳鼻咽喉科 洲崎春海

滋賀医科大学耳鼻咽喉科 清水猛史

『日本発, 世界に広がるマクロライド療法の現状とこれからの展望』

『Current situation and future prospect of macrolide therapy for chronic rhinosinusitis』

ORL-Head and Neck surgery, Lund University, Sweden Anders Carvin

The first affiliated hospital, Sun Yat-sen University, China Geng Xu

Otorhinolaryngology, Shiga University of Medical School, Japan Takeshi Shimizu

Otorhinolaryngology, Saitama medical center of Jichi Medical University, Japan Ykiko Iino

特別報告

座長 大分大学医学部総合内科学第二講座 門田淳一

1. 肺MAC症におけるマクロライド耐性の現状とその対策
天理よろづ相談所病院呼吸器内科¹⁾, 京都大学医学部附属病院呼吸器内科²⁾
橋本成修¹⁾, 田中栄作¹⁾, 辻 貴弘¹⁾, 中塚賀也¹⁾, 福永健太郎¹⁾, 池添浩平¹⁾, 加持雄介¹⁾, 安田武洋¹⁾,
寺田邦彦¹⁾, 羽白 高¹⁾, 田口善夫¹⁾, 伊藤 穰²⁾

一般演題3 『炎症／呼吸器』

座長 東京臨海病院呼吸器内科 臼杵二郎

1. クラリスロマイシン代謝物M-4の一酸化窒素(NO)産生抑制作用
昭和大学医学部耳鼻咽喉科学教室¹⁾, 昭和大学保健医療学部²⁾
古矢彩子¹⁾, 庄司育央¹⁾, 平野康次郎¹⁾, 浜崎泰祐¹⁾, 洲崎春海¹⁾, 浅野和仁²⁾
2. モルモットのアレルギー性好酸球性気道炎症に伴う咳感受性亢進に対するマクロライド系抗菌薬の影響
金沢大学附属病院呼吸器内科
徳田 麗, 大倉徳幸, 片山伸幸, 西辻 雅, 藤村政樹

一般演題4 『臨床応用』

座長 九州保健福祉大学薬学部感染症治療学研究室 佐藤圭創

1. クラリスロマイシンは移植後心拒絶を抑制する
東京大学先端臨床医学開発講座, NB健康研究所, 東京医科歯科大学循環器内科
鈴木淳一, 小川真仁, 高山喜好, 磯部光晃
2. エリスロマイシンの併用が有効であった難治性MRSA感染症の1例
東京警察病院救急科¹⁾, 同感染制御対策室²⁾, 同内科³⁾, 塩野義製薬(株)医薬開発本部⁴⁾
金井尚之¹⁾, 切田学¹⁾, 甲田雅一²⁾, 西前伊紀子³⁾, 永田傳⁴⁾

ワークショップ 新規12員環マクロライド「EM900」の抗炎症作用について

座長 北里大学北里生命科学研究所 砂塚敏明

東京女子医科大学第一内科 玉置 淳

1. EM900による抗炎症反応の分子メカニズム
北里大学理学部生体防御学講座¹⁾, 北里大学北里生命科学研究所²⁾
井上浄¹⁾, 渡辺幸子¹⁾, 服部雅一¹⁾, 砂塚敏明²⁾, 大村 智²⁾
2. 気道上皮細胞からの粘液分泌に対するEM900の抑制作用
滋賀医科大学耳鼻咽喉科, 北里大学北里生命科学研究所
戸嶋一郎, 清水志乃, 小河孝夫, 清水猛史, 砂塚敏明, 大村 智
3. EM900の抗炎症作用ならびにムチン遺伝子発現に対する効果
三重大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科, 北里大学北里生命科学研究所,
熊本大学大学院生命科学研究所
石永 一, 大津和弥, 鈴木慎也, 城野博文, 砂塚敏明, 竹内万彦
4. EM900とモメタゾンによるEotaxin, VEGF産生抑制効果について
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学¹⁾, 北里大学北里生命科学研究所²⁾
松根彰志¹⁾, 吉福孝介¹⁾, 原田みずえ¹⁾, 大堀純一郎¹⁾, 黒野祐一¹⁾, 砂塚敏明²⁾, 大村 智²⁾
5. EM900によるライノウイルス感染抑制効果について
東北大学大学院医学系研究科先進感染症予防学寄附講座¹⁾, 北里大学感染制御学府²⁾,
東北大学未来医工学治療開発センター³⁾, 東北大学病院呼吸器内科⁴⁾
山谷睦雄¹⁾, 旗智幸政¹⁾, 久保裕司¹⁾, 砂塚敏明²⁾, 大村 智²⁾, 鄧 雪³⁾, 佐々木暢彦⁴⁾

第1回 びまん性肺疾患バイオマーカー研究会

日 時 : 2010年8月20日(金)18:00～21:00

会 場 : 東京ステーションコンファレンス5F

テーマ : 間質性肺炎のバイオマーカー

オープニング・リマーク : 自治医科大学内科学講座呼吸器内科学部門 教授 杉山幸比古

一般演題 I

座長 東北大学大学院呼吸器病態学分野 准教授 海老名雅仁

1. 分子構造的特性解析によるKL-6の肺胞-血液間動態に関する研究
北海道大学大学院医学研究科呼吸器内科学分野/同病院検査・輸血部
重村雅彦

2. ブレオマイシン急性肺損傷モデルにおける Surfactant Protein A の役割
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部呼吸器・膠原病内科学分野
後東久嗣
3. 血清KL-6およびSP-Dが異常高値を示した間質性肺炎の臨床病理学的検討
東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科
杉野圭史

一般演題Ⅱ

座長 高知大学医学部血液・呼吸器内科学 教授 横山彰仁

4. 特発性肺線維症における血清KL-6, SP-D, 血漿CTGFの検討
浜松医科大学第二内科
河野雅人
5. KL-6は胸部網状陰影の予後予測に有用である
東北大学病院呼吸器内科
久田 修
6. SP-D異常高値KL-6正常値症例の検討
獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科
林ゆめこ
7. 血清マーカーからみた強皮症合併間質性肺炎と多発性筋炎／皮膚筋炎合併間質性肺炎の比較
金沢市立病院呼吸器内科
安井正英

一般演題Ⅲ

座長 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門 教授 吾妻安良太

8. 間質性肺炎の慢性経過におけるKL-6と呼吸機能の関連
福岡大学医学部呼吸器内科
廣田貴子
9. 特発性間質性肺炎急性増悪例における血清マーカーの意義
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター呼吸器内科
新井 徹
10. IPF／UIPに対するピルフェニドン使用経験を通じた肺線維化マーカーの経時的推移に関する検討
国家公務員共済組合連合会虎の門病院呼吸器センター内科
宮本 篤

特別講演Ⅰ

座長 東北大学大学院呼吸器病態学分野 教授 貫和敏博

血清KL-6値解釈のコツ

広島大学医学部分子内科学 教授 河野修興

特別講演Ⅱ

座長 公益財団法人結核予防会複十字病院 院長 工藤翔二

間質性肺炎診断におけるSP-Dの特性

札幌医科大学医学部内科学第三講座 教授 高橋弘毅

第13回 間質性肺炎細胞分子病態研究会

日 時：2010年8月21日(土)10:25～15:50
会 場：東京・ベルサール九段 3階イベントホール
代表世話人：東北大学大学院医学系研究科呼吸器病態学分野 貫和敏博
自治医科大学内科学講座呼吸器内科学部門 杉山幸比古

開会の挨拶：東北大学大学院医学系研究科呼吸器病態学分野 貫和敏博

一般演題：細胞分子病態

座長 独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 林 清二
埼玉医科大学呼吸器内科 萩原弘一

1. ブレオマイシン誘導肺線維症モデルにおける，RNA干渉を利用したPAI-1の発現抑制による抗線維化作用の検討
広島大学大学院分子内科学
妹尾 直
2. 慢性過敏性肺炎マウスモデルにおける上皮間葉転換(EMT)の検討
東京医科歯科大学呼吸器内科
安井牧人
3. 骨髄異形性症候群に伴う肺線維症に引き続き発症した肺胞蛋白症の分子病態的検討
福島県立医科大学呼吸器内科
大島謙吾
4. 間質性肺疾患，慢性閉塞性肺疾患におけるIL-18の役割
久留米大学医学部内科学講座呼吸器・神経・膠原病内科部門
岡元昌樹

特別講演

座長 東北大学大学院医学系研究科呼吸器病態学分野 貫和敏博
肺機能を基にするGWAS解析の理解：Nat Genetの論文を基礎にその推計学的背景と意義の解説
理化学研究所ゲノム医科学研究センター 鎌谷直之

ミニシンポジウム：気腫合併肺線維症(CPFE)の臨床・病理・機能・発がん

座長 広島大学大学院医歯学総合研究科分子内科学 河野修興
自治医科大学内科学講座呼吸器内科学部門 杉山幸比古

ミニレクチャー 気腫合併肺線維症(CPFE)のOverview

埼玉医科大学呼吸器内科 金澤 實

1. 慢性線維化性間質性肺炎連続症例における肺気腫合併例の臨床的特徴
埼玉医科大学病院呼吸器内科
加賀亜希子
2. 肺気腫合併肺線維症の病理像：気腫病変と線維化病変の分布の特徴
東北大学大学院医学系研究科呼吸器病態学分野

海老名雅仁

3. 気腫や嚢胞性変化を有する間質性肺炎例における呼吸抵抗測定の意義
静岡県立総合病院呼吸器内科

森 和貴

4. 肺気腫を合併した特発性肺線維症(combined pulmonary fibrosis and emphysema, CPFE)患者の呼吸機能における年次変化についての検討

福岡大学筑紫病院第2内科

赤木隆起

5. 肺癌を合併した気腫合併肺線維症(CPFE)の画像病理学的検討
東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科

杉野圭史

閉会の挨拶：自治医科大学内科学講座呼吸器内科学部門 杉山幸比古

第82回 間質性肺疾患研究会

日 時：2010年10月29日(金)13:00～17:00

会 場：アステラス製薬株式会社 本社2階ホール

世話人：天理よろづ相談所病院医学研究所病理 小橋陽一郎

主 題：LIP及びその周辺疾患

開会挨拶：天理よろづ相談所病院医学研究所病理 小橋陽一郎

一般演題 第一部：膠原病関連のLIP

座長：金沢市立病院呼吸器科 安井正英

1. 英国でLIPと診断されシェーグレン症候群の関与が疑われた1例
日本赤十字社医療センター呼吸器内科¹⁾，同 病理部²⁾
○猪俣 稔¹⁾，近藤圭介¹⁾，佐竹晃太¹⁾，増尾昌宏¹⁾，守屋敦子¹⁾，神宮浩之¹⁾，安藤常浩¹⁾，
生島壮一郎¹⁾，武村民子²⁾
2. 16年の経過でリンパ球浸潤の軽減と気管支拡張の増強を認めた関節リウマチ合併Follicular bronchiolitisの1症例
東仙台リウマチ科内科クリニック
○泉山朋政，齋藤輝信，澤井高志
3. VATSでLIP類似所見を呈した肺限局IgG4関連肺疾患の1例
神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科¹⁾，同 病理²⁾
○永田一真¹⁾，田中広祐¹⁾，松本 健¹⁾，門田和也¹⁾，櫻井綾子¹⁾，南條成輝¹⁾，大塚今日子¹⁾，
立川 良¹⁾，大塚浩二郎¹⁾，林三千雄¹⁾，富井啓介¹⁾，今井幸弘²⁾

第二部：間質性肺炎とLIP

座長：NHO近畿中央胸部疾患センター呼吸不全難治性肺疾患研究部 井上義一

神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器科 小倉高志

4. 喫煙関連肺疾患が疑われ，胸腔鏡下肺生検で診断したLIPの一例
NHO近畿中央胸部疾患センター内科¹⁾，呼吸不全難治性肺疾患研究部²⁾，同 病理³⁾，同 放射線科⁴⁾，

広島赤十字・原爆病院リウマチ科⁵⁾

○新井 徹^{1) 2)}, 大塚淳司⁵⁾, 井上義一²⁾, 北市正則^{2) 3)}, 審良正則^{2) 4)}, 林 清二¹⁾

5. 原因不明の間質性肺炎として17年観察され、高 γ グロブリン血症発症を契機に確定診断に至ったLIPの一例

NHO近畿中央胸部疾患センター呼吸不全難治性肺疾患研究部¹⁾, 同 内科²⁾, 同 病理³⁾, 同 放射線科⁴⁾

○井上義一¹⁾, 新井 徹^{1) 2)}, 北市正則^{1) 3)}, 審良正則^{1) 4)}, 林 清二²⁾

6. LIPの診断11年後に、肺癌を合併した1例

神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科¹⁾, 聖マリアンナ医科大学呼吸器感染症内科²⁾, 聖マリアンナ医科大学病院病理部³⁾, 横浜市立大学医学部病理学講座⁴⁾, 日本赤十字社医療センター病理部⁵⁾

○澤田哲郎¹⁾, 小倉高志¹⁾, 馬場智尚¹⁾, 遠藤高広¹⁾, 白川妙子²⁾, 宮澤輝臣²⁾, 高木正之³⁾, 奥寺康司⁴⁾, 武村民子⁵⁾

7. HIV関連小児リンパ球性間質性肺炎の一例

国家公務員共済組合連合会虎の門病院病理部, 国立国際医療研究センター病院中央検査部病理
○藤井丈士

第三部：リンパ増殖性疾患とLIP

座長：神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科 富井啓介

公立学校共済組合関東中央病院臨床検査科・病理科 岡 輝明

8. 高IgG血症を伴い病理学的にLIP様所見を呈し、13年間経過を追えている間質性肺炎の1例

NHO姫路医療センター呼吸器内科¹⁾, 天理よろづ相談所病院病理²⁾

○河村哲治¹⁾, 大西康貴¹⁾, 三村一行¹⁾, 勝田倫子¹⁾, 鏡 亮吾¹⁾, 渡部悦子¹⁾, 横山俊秀¹⁾, 田畑寿子¹⁾, 宮川倫子¹⁾, 真弓哲一郎¹⁾, 塚本宏壮¹⁾, 水守康之¹⁾, 守本明枝¹⁾, 岡本裕子¹⁾, 佐々木信¹⁾, 中原保治¹⁾, 望月吉郎¹⁾, 小橋陽一郎²⁾

9. 経気管支肺生検でLow Grade B-cell Lymphomaが疑われた亜急性間質性肺炎の一例

倉敷中央病院呼吸器内科

○坪内和哉, 有田眞知子, 福田 奏, 渡邊直樹, 興柁陽平, 小西聡史, 伊賀知也, 國政 啓, 西山明宏, 岩破将博, 仲川宏昭, 伊藤明広, 生方 智, 吉岡弘鎮, 橋 洋正, 橋本 徹, 石田 直

10. びまん性すりガラス陰影を呈したリンパ増殖性肺疾患の1例

大垣市民病院呼吸器内科

○白木 晶, 進藤 丈, 安藤守秀, 安部 崇, 加藤俊夫, 雪田洋介

11. 2度の外科的肺生検にて経過を追えた肺リンパ増殖性疾患の1例

富山大学付属病院病理部¹⁾, 同 富山大学保健管理センター²⁾, 同 病態病理学³⁾, 同 外科病理学⁴⁾

○田中伴典¹⁾, 松井祥子²⁾, 富永正樹¹⁾, 齊藤愛美¹⁾, 清水重喜¹⁾, 石澤 伸³⁾, 福岡順也^{1) 4)}

第四部：特別講演

座長：天理よろづ相談所病院医学研究所病理 小橋陽一郎

「肺のリンパ増殖性疾患におけるLIPの意味-LIPは疾患か」

公立学校共済組合関東中央病院臨床検査科・病理科 岡 輝明

第五部：総合討論

閉会挨拶：天理よろづ相談所病院医学研究所病理 小橋陽一郎

**平成22年度 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業
『びまん性肺疾患に関する調査研究』 第二回班会議総会**

日 時：平成22年12月10日(金) 13:30～18:00

12月11日(土) 9:00～16:30

場 所：大正製薬(株)本社ビル

開会挨拶

研究代表者 自治医科大学 杉山幸比古

厚生労働科学研究費による研究班の概要

厚生労働省健康局疾病対策課

ピルフェニドン症例検討会

(発表7分+質疑3分)

司会：菅 守隆
石井 芳樹

1. ピルフェニドンが著効した肝硬変合併IPFの一例
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部呼吸器・膠原病内科学分野
岸 昌美, 西岡安彦, 木下勝弘, 東 桃代, 竹崎彰夫, 曾根三郎
2. ピルフェニドンが著効したIPFの2症例
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 呼吸器センター内科¹, 放射線診断科²
花田豪郎¹, 宇留賀紀¹, 高谷久史¹, 宮本 篤¹, 杉本栄康¹, 諸川納早¹, 黒崎敦子²,
岸 一馬¹
3. プレスパ投与で病状の改善を認めた特発性肺線維症の2症例
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 呼吸不全・難治性肺疾患研究部¹, 内科², 放射線科³, 病理⁴
新井徹¹⁾²⁾, 井上義一¹⁾, 審良正則¹⁾³⁾, 北市正則¹⁾⁴⁾, 林 清二²⁾
4. プレスパ初回単独治療と追加投与症例における血清マーカーの改善効果：
東北大学大学院呼吸器病態学
海老名雅仁, 久田修, 鳴海創大, 千葉茂樹, 太田洋充, 大河内真也, 玉田勉, 貫和敏博
5. ピルフェニドン単剤にてFVC10%以上の改善が得られたIPFの2症例
公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科
片岡健介, 谷口博之, 近藤康博, 木村智樹
6. ピルフェニドン投与にて, 6分間歩行試験と胸部画像が改善して趣味のゴルフが可能になったIPF/
UIPの1例
神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科¹, 日本赤十字医療センター病理部²,
横浜市立大学医学部病態病理学³
奥田良¹, 小倉高志¹, 遠藤高広¹, 馬場智尚¹, 前原愛¹, 池田慧¹, 中澤篤人¹, 緒方良¹, 織田恒幸¹,
澤田哲郎¹, 澤幡美千瑠¹, 榎本崇宏¹, 土屋典子¹, 篠原岳¹, 西平隆一¹, 加藤晃史¹, 小松茂¹,
萩原恵里¹, 高橋宏¹ 武村民子², 矢澤卓也³

7. Pirfenidone と NAC の併用が奏功した IPF の一例

東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科¹

坂本 晋¹, 伊藤貴文¹, 和田知博¹, 鏑木教平¹, 後町杏子¹, 岩田基秀¹, 石田文昭¹, 菊池 直¹,
佐藤大輔¹, 佐藤敬太¹, 阪口真之¹, 佐野 剛¹, 杉野圭史¹, 磯部和順¹, 高井雄二郎¹, 本間 栄¹

各個研究

(発表5分+質疑2分)

I. 特発性間質性肺炎

病態(基礎)に関する研究

司会: 瀬戸口靖弘

西岡 安彦

1. 線維形成性肺障害病態におけるマウス肺標識保持細胞挙動の解析
東京大学大学院医学系研究科分子予防医学 西脇徹, 松島綱治
2. オートファジーによる細胞老化の制御
東京慈恵会医科大学呼吸器内科 原 弘道
3. 急性肺障害における急性低酸素状態と遷延化低酸素状態によるサーファクタントプロテインDの発現
差異の検討
名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科 橋本直純
4. 間質性肺炎におけるIV型コラーゲン α 鎖(1-6)の局在と産生
日本医科大学解析人体病理学 漆山博和
5. シリカ肺線維化モデルにおいて遅延して局所発現増加する因子の同定
帝京大学内科 呼吸器・アレルギー学 長瀬洋之
6. 新規免疫抑制薬FTY720のマウスブレオマイシン誘発肺線維症に及ぼす効果の検討
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部呼吸器・膠原病内科学分野 西岡安彦
7. 末梢気道損傷に対するEGFR-TKIの作用に関する検討
九州大学大学院医学研究院附属胸部疾患研究施設 前山隆茂

病態(臨床)・診断に関する研究

司会: 滝澤 始

小倉 高志

8. 肺の急性炎症における syndecan-4 の役割
福島県立医科大学呼吸器内科 谷野功典
9. 特発性間質性肺炎の病態における呼気凝縮液中の増殖因子測定の意義
帝京大学医学部付属溝口病院第四内科 大林王司
10. シアリルルイス A 糖鎖を有する KL-6(SLAK) の間質性肺疾患におけるバイオマーカーとしての有用性
広島大学大学院分子内科学 吉岡宏治
11. 間質性肺炎における画像病理対応(第1報)—蜂巣肺の理解のために—
天理よろづ相談所病院放射線科 野間恵之
12. Usual Interstitial Pneumonia と Nonspecific Interstitial Pneumonia の外科的生検局所CT像の診断能: 病理診
断との対比

- 公立学校共済組合近畿中央病院放射線診断科 上甲 剛
13. 慢性間質性肺炎の病理診断の標準化へ向けた診断一致度の現状把握と対策
富山大学病理部 福岡順也
14. 50歳未満の外科的肺生検で診断された間質性肺炎の検討
神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科 緒方 良
15. 線維間質性肺炎の診断に対する気管支肺胞洗浄検査 とくに慢性過敏性肺炎との鑑別への意義について
済生会熊本病院呼吸器科 川村宏大
16. Idiopathic Non-Specific Interstitial Pneumonia 患者の高分解能CT所見の長期変化と予後
(NHO近畿中央胸部疾患センター3年間の個部研究成果も含めて)
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 井上義一

臨床経過・合併症・関連疾患に関する研究

司会：井上 義一
岸 一馬

17. 特発性肺線維症における急性増悪の危険因子の検討
公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科 谷口博之
18. 間質性肺炎合併肺癌切除患者における術後急性増悪に関連する因子の探索－多施設共同後向きコホート研究について(経過報告)
京都大学医学部附属病院呼吸器外科 伊達洋至
19. 気腫合併肺線維症とその発癌に関する臨床および病理学的検討
東北大学大学院医学系研究科呼吸器病態学分野 千葉茂樹
20. 特発性間質性肺炎症例におけるMPO-ANCA陽性症例の臨床的検討
浜松医科大学第二内科 貝田勇介
21. CADM-140抗体陽性間質性肺炎の臨床、画像所見
京都大学医学部附属病院リハビリテーション部、呼吸器内科 半田知宏
22. 間質性肺炎患者に合併した肺アスペルギルス症の臨床的検討
虎の門病院呼吸器センター内科 花田豪郎

第2日目(12月11日 土)

治療に関する研究

司会：棟方 充
桑野 和善

23. 早期IPFに対する長期NAC単独吸入療法の効果とレドックス制御の関連性
東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科 村松陽子
24. 当院における特発性肺線維症pirfenidon使用症例に関する検討
東京医科大学病院呼吸内科 山口公一
25. ピレスパの咳嗽，息切れに対する効果について
日本医科大学内科学講座呼吸器・感染腫瘍部門 三浦由記子
26. 急速進行性のびまん性肺疾患に対するPMX-DHP療法の臨床的検討
長崎大学医学部第二内科 原信太郎

Ⅱ. 慢性過敏性肺炎

Ⅲ. サルコイドーシス

Ⅳ. DPB・BO

司会：山口 哲生
四十坊典晴

27. 慢性過敏性肺炎の気管支肺胞洗浄液におけるプロテオミクス解析
東京医科歯科大学呼吸器内科 岡本 師
28. サルコイドーシス病変部における *Propionibacterium acnes* の検出と局在の検討
東京医科歯科大学人体病理学分野 根木真理子
29. サルコイドーシス症例における末梢血中樹状細胞サブセットの解析
獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科 林ゆめ子
30. 札幌市3病院における、2000年以降に診断されたサルコイドーシスの臨床像
北海道大学第一内科 今野 哲
JR札幌病院 四十坊典晴
31. サルコイドーシスの新重症度分類
国立病院機構西別府病院内科 杉崎勝教
32. サルコイドーシスに対するメソトレキサートとアザチオプリンの有用性
JR東京総合病院呼吸器内科 一色琢磨
33. びまん性汎細気管支炎の疾患感受性遺伝子研究
国立国際医療センター 土方美奈子

「びまん性肺疾患に関する調査研究班2008-2010」3年間のまとめと今後の展望

自治医科大学呼吸器内科 杉山幸比古, 坂東政司

特発性間質性肺炎重点項目・部門報告(発表10分+質疑10分)

- ① 疫学調査(北海道 study) 札幌医科大学第三内科 高橋弘毅
- ② IPF急性増悪の遺伝子解析 埼玉医科大学 萩原弘一
- ③ PMX部会 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門 吾妻安良太

トピックス(発表10分+質疑5分)

座長：杉山幸比古

- I. 肺線維症と Endothelial-mesenchymal transition(Endothelial-MT) を介した血管内皮由来肺線維芽細胞の可能性
名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科 橋本直純
- II. IgG4関連疾患の呼吸器病変について 富山大学保健管理センター 松井祥子
- ④ IP合併肺癌の治療指針策定部会
追加報告 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座呼吸器病態学分野 海老名雅仁
日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門 弦間昭彦(峯岸裕司)
- ⑤ IIPs「診断と治療の手引き」改訂準備部会 東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科 本間 栄

特発性間質性肺炎部門報告

- ⑥ 急性増悪部会 天理よろづ相談所病院呼吸器内科 田口善夫

- | | | |
|---------------------|---------------------|------|
| ⑦ 膠原病肺病部会 | 浜松医科大学内科学第二講座 | 千田金吾 |
| ⑧ 慢性過敏性肺炎部会 | 東京医科歯科大学呼吸器内科 | 稲瀬直彦 |
| ⑨ 在宅酸素療法リハビリテーション部会 | 公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科 | 谷口博之 |
| ⑩ 画像部会 | 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科 | 酒井文和 |

サルコイドーシス部門報告

浜松医科大学内科学第二講座 千田金吾

BO・DPB部門報告

名古屋大学内科学講座呼吸器内科学分野 長谷川好規

事務連絡

事務局 坂東政司

閉会挨拶

研究代表者 杉山幸比古

第9回 DPB・難治性気道疾患研究会

日 時：2011年2月5日(土)13:00～17:30

会 場：東京国際フォーラム・会議室(G409)

世話人：奈良県立医科大学附属病院感染症センター 三笠桂一

主 題：感染と気道病変-気道疾患の内科治療の限界と今後-

開会の挨拶：奈良県立医科大学附属病院感染症センター 三笠桂一

一般演題 気道感染症・気道病変

座長：福島県立医科大学医学部呼吸器内科学講座 棟方 充

1. 肺アスペルギルス症を合併した難治性肺結核性抗酸菌症の3例
奈良県立医科大学附属病院感染症センター
○小川 拓, 片浪雄一, 中川智代, 宇野健司, 笠原 敬, 前田光一, 三笠桂一
2. 気管支鏡下の採石術により呼吸不全状態が改善したびまん性気管支拡張症に伴う気管支結石症の1例
大森赤十字病院 呼吸器内科¹⁾, 同 呼吸器外科²⁾, 虎の門病院呼吸器センター内科³⁾
○辻川 雄¹⁾, 馬庭 厚¹⁾, 江島美保¹⁾, 友安 浩²⁾, 岸 一馬³⁾, 吉村邦彦¹⁾
3. Bronchocentric granulomatosis 所見を呈したびまん性気管支拡張症の一例
福島県立医科大学呼吸器内科
○福原奈緒子, 谷野功典, 猪腰弥生, 佐藤 俊, 石井妙子, 福原敦朗, 二階堂雄文, 石田 卓,
棟方 充
4. DPB様肺病変を呈した Good 症候群の一例
産業医科大学呼吸器内科学講座
○生越貴明, 石本裕士, 原可奈子, 山家千与, 赤田憲太郎, 徳山 晋, 神崎未奈子, 長田周也,
西田千夏, 山崎 啓, 川波敏則, 矢寺和博, 吉井千春, 迎 寛

要望演題 感染と気道病変の難治例・外科切除例・肺移植を依頼した症例

座長 東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科 本間 栄

1. 急性増悪の治療に伴う緑膿菌の薬剤感受性を追跡した気管支拡張症の2例
奈良県立医科大学附属病院感染症センター

- 小川 拓, 片浪雄一, 中川智代, 宇野健司, 笠原 敬, 前田光一, 三笠桂一
2. 気管支拡張症に合併した耐性緑膿菌による難治性持続気道感染の1例
東邦大学医療センター大森病院 呼吸器内科¹⁾, 同 微生物・感染症学講座²⁾
- 佐野 剛¹⁾, 卜部尚久¹⁾, 岩田基秀¹⁾, 宮崎泰斗¹⁾, 佐藤敬太¹⁾, 杉野圭史¹⁾, 磯部和順¹⁾,
坂本 晋¹⁾, 高井雄二郎¹⁾, 吉澤定子²⁾, 舘田一博²⁾, 山口恵三²⁾, 本間 栄¹⁾
3. 内科治療が無効であったびまん性汎細気管支炎と考えられる一例
公益財団法人結核予防会 複十字病院呼吸器センター¹⁾, 同 病理部²⁾
- 森本耕三¹⁾, 伊麗娜¹⁾, 窪田素子¹⁾, 國東博之¹⁾, 矢野量三¹⁾, 奥村昌夫¹⁾, 内山隆司¹⁾, 吉山 崇¹⁾,
早乙女幹朗¹⁾, 吉森浩三¹⁾, 尾形英雄¹⁾, 倉島篤行¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 田中さゆり²⁾
4. 生体肺移植術を施行した耐性緑膿菌感染合併の嚢胞性線維症の1例
長崎大学病院第2内科¹⁾, 同 検査部²⁾, 国立病院機構長崎医療センター³⁾, 長崎大学腫瘍外科⁴⁾
- 藤田華子¹⁾, 原 敦子¹⁾, 坂本憲穂¹⁾, 石松祐二¹⁾, 山本善裕¹⁾, 柳原克紀²⁾, 田川 努³⁾,
山崎直哉⁴⁾, 永安 武⁴⁾, 河野 茂¹⁾

特別講演 テーマ：気道感染症または気道疾患の外科的治療

- I. 気道疾患・気道感染における外科治療について
座長 奈良県立医科大学附属病院感染症センター 三笠桂一
演者 公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸器センター長(呼吸器外科) 白石裕治
- II. 気道疾患・気道感染における肺移植について
座長 公益財団法人結核予防会複十字病院 工藤翔二
演者 京都大学医学部附属病院呼吸器外科教授 伊達洋至

閉会の挨拶：公益財団法人結核予防会複十字病院 工藤翔二

A. 特発性間質性肺炎

I . 部 会 報 告

IPF 急性増悪の遺伝子解析(萩原弘一)

特発性肺線維症急性増悪及び薬剤性肺障害に関する
日本人特異的遺伝素因に関する研究

埼玉医科大学 呼吸器内科

萩原弘一

特発性肺線維症急性増悪, 薬剤性肺障害は, 高率に致死的経過を取る重篤な病態である. びまん性肺疾患調査研究班を中心とした近年の研究により, 両者の発症頻度には民族差があり, 日本人では他民族と比較して高率に両病態が認められると推定されている. 民族差が認められる疾患には遺伝因子が関与している可能性が高く, 遺伝因子の解明により疾患原因の解明, 治療法, 予防法の開発が可能となるため, 遺伝因子解明の必要性は高い.

本部会の目的は, 特発性肺線維症急性増悪, 薬剤性肺障害に関する遺伝因子解明である.

現在行なわれている全ゲノム関連解析を中心とする遺伝因子解明手法は, 診断の確実な症例を多数集積することを前提としている. しかしながら, 特発性肺線維症急性増悪, 薬剤性肺障害を, 類似の病態を有する非特異的肺線維症急性増悪, 急性心不全, 重症肺炎などと明確に分類することは必ずしも容易ではない. 症例を集積するとともに, (1)びまん性肺疾患調査研究班で毎年精密化される疾患概念を取り入れ, 集積症例の臨床診断を常に見直しながらか解析対象患者集団を絞り込む, (2)類縁病態患者が混入する可能性を考慮に入れた遺伝解析手法を使用する, という2点を満足した研究でなければ遺伝因子の解明は覚束ない. 本部会では(1)画像を含めた臨床情報と共に患者DNAを収集する, (2)少数例, 高バックグラウンド集団に使用できる解析手法を開発する, の2つを柱として研究を進めている.

背 景

近年, 日本人肺の脆弱性が指摘されている(Azuma A, Hagiwara K, Kudoh S. *Am J Respir Crit Care Med.* 177:1397, 2008). (1)薬剤性肺障害が他国(西洋や他のアジア人)より高頻度で見られ, 高率に致死的な経過をたどること(Azuma and Kudo, *JMAJ* 50:1-7, 2007:表1), (2)肺線維症を有する患者で他国より高頻度に急性増悪が起こり, 高い致死率を示すと推定されること(Azuma et al. *Am J Respir Crit Care Med.* 177:1397, 2008)が典型例である. これ以外にも(3)皮膚筋炎に伴うびまん性肺胞障害(DAD)型の急性間質性肺炎は海外では非常に少ない(Kameda et al. *J Rheumatol* 34:1719, 2005及び亀田私信). (4)肺線維症合併肺手術後の肺線維症急性増悪は海外にはあまり見られない(工藤私信)などがある. 日本人は, 特定の条件下で, びまん性肺胞障害(DAD)を起こしやすいようだ.

病態に明確な民族差がある場合, 民族特異的な遺伝因子があると考えられる. 好例は「下戸の遺伝子」(ALDH2の変異遺伝子:アルコール代謝機能が低下する)である. 「酒が飲めない人」は東洋人に限られる. 「下戸の遺伝子」は中国で生じ, 地域で広がったものだからである(Goeddel et al. *Hum Genet* 88:344, 1992). 日本には弥生時代に渡来人がもたらした. 日本に入って2000年程度という新しい遺伝子だが, 現日本人に高率に見いだされる(Shibuya et al. *Am J Hum Genet* 43:741, 1988). 特殊な状況(「下戸の遺伝子」ではアルコール摂取)のみで明確になる遺伝子は通常の生活では選択を受けないため, 集団内に広がりやすい.

特発性肺線維症急性増悪は, 近年海外でもその存在が認められてきているが, 明確な頻度は不明である. 日本の特発性肺線維症患者の約1/3は急性増悪で死亡すると推定されている.

薬剤性肺障害の頻度に関しては, 特定の薬剤に明